

穂(ち)落ち

猫を飼っている。妹の友人で、ペットショップで働くフリーダーから頂いたのだ。二〇〇三年、CLUB CAT JAPAN短毛種幼年の部、短毛長毛種混合幼年の部の優勝を果たした。ミイウ君(わが家の愛猫)にとつて最初で最後の大会で、たくさんの猫に出会ったのは初めてだったが、大きな猫にシャーシャーとうなり声をあげ渡り合っている姿には驚かされた。来年も頑張ろうと思つた後、ふと悩んだ「何を頑張ればよいのだろう」。大会に出るのは私ではなく、ミイウ君なのだ。

沖縄タルクのデイケアセンターに上びきの野良猫が相談?に現れた。腹がすいていると言ふことは伝わってきたので、銀行に行くついでにコンビニに寄り、いや、餌を買いに行くついでに銀行に寄り、キヤットフードを買ってきたのが運の尽き、大半の仲間の懇願するような視線が迫力をまと

野良まやー

三浦 陽一

(沖縄タルク・チーフディレクター)

「泣かない子供はおっぱいがもらえない」と私によく教へて下さっていたのです。実際、単に野良猫が入って来ただけなら、体よく追い出していただくことでしょう。しかし

根負けしたといつか、もともNOと言えないから薬物依存症になった優しい?私達はおくして、トンビ君に心奪われるようになったのです。いかつい、刺青をいれた、顔面すら凶器のような仲間が猫なで声でトンビ君を構う姿は、DVDで販売したくなるような光景で笑えます。癒やされるだけでなく、癒やされたその周りの仲間たちにもまた癒やされて、今や癒やしのエエプが起りつつあるので。先ほど、「泣かない子供はおっぱいがもらえない」と言う話に触れましたので、書かせていただきます。「貧困、弱小、沖縄タルクを見捨てず、ご理解、ご支援ください」と。